

ギリシアからインドまで 征服したアレクサンドロス大王



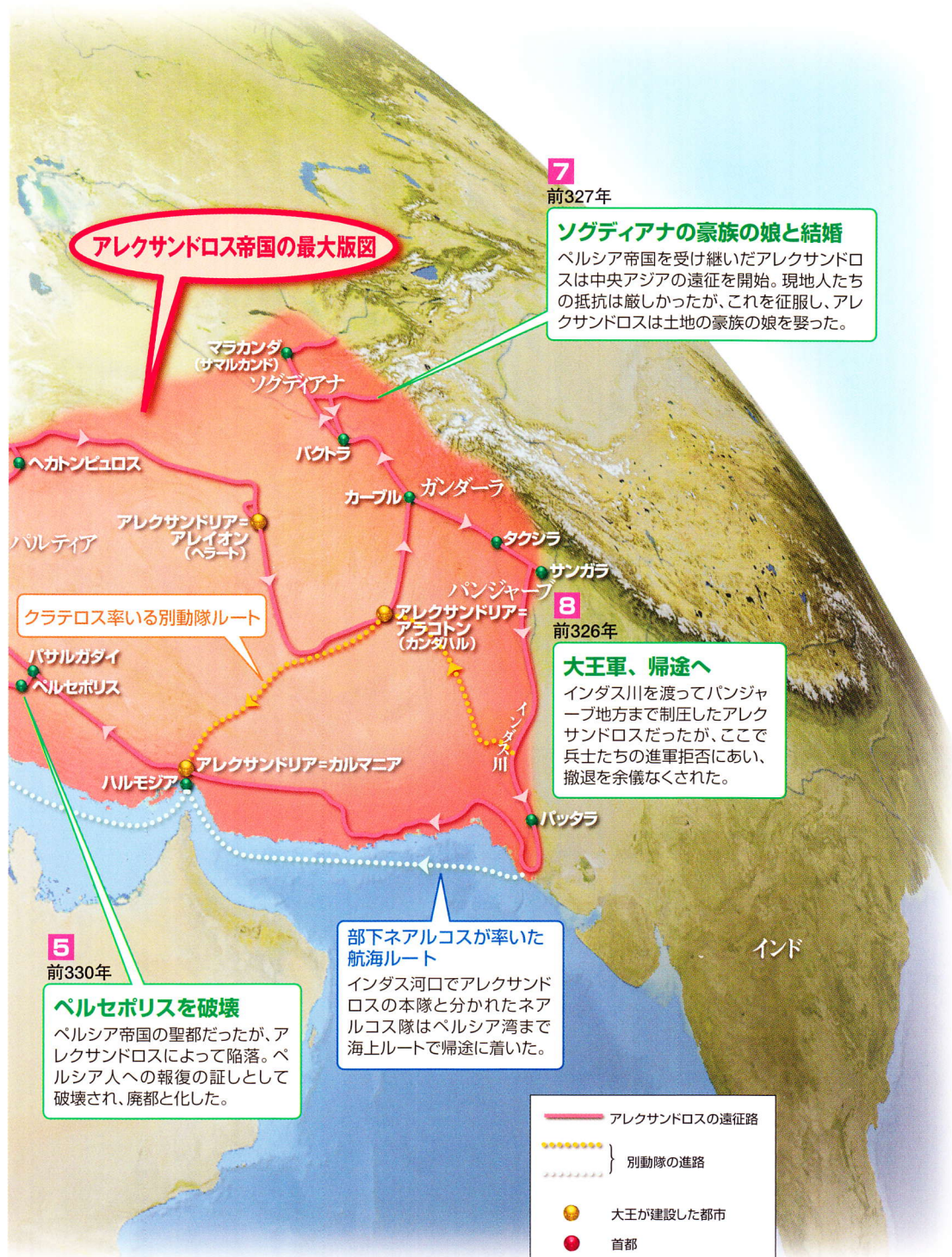
前334年
前323年

バルカン半島の小国、マケドニアの王アレクサンドロスはたった11年でインダス川流域まで制圧。ヘレニズム時代を築いた。

東西文化の融合を進めた アレクサンドロスの遠征

前4世紀後半、バルカン半島中央部に台頭したマケドニアは、フィリッポス2世の時代にギリシアのポリス世界を掌握した（P25参照）。そして前334年、その息子アレクサンドロスは、ペルシアへの報復戦争（東方遠征）を開始した。遠征軍はイッソスの戦い、アルベラの戦いなどでペルシア軍を次々と撃破し、スサ、ペルセポリスを占領した。アレクサンドロスはペルシア帝国の後継者を名乗り、さらに中央アジアからインダス川流域まで征服して大帝國を築いた。

東西世界の融合を旨としたアレクサンドロスは、遠征中に70以上の都市を建設し、多くのギリシア人を移住させたため、オリエント文明のなかに広くギリシア文明が浸透しヘレニズム文明が生まれた。前323年、アレクサンドロスがバビロンで急死すると、ディアドコイ（後継者）たちの争いとなり、セレウコス朝シリヤ、プトレマイオス朝エジプト、アンティゴノス朝マケドニアなどに分割された。いずれもギリシア人が現地人を支配するヘレニズム国家で、前2世紀以降、次第にローマに征服されていった。そしてアレクサンドロスの東征から前30年にプトレマイオス朝が減るまでをヘレニズム時代とよぶ。



7
前327年

ソグディアナの豪族の娘と結婚
ペルシア帝国を受け継いだアレクサンドロスは中央アジアの遠征を開始。現地人たちの抵抗は厳しかったが、これを征服し、アレクサンドロスは土地の豪族の娘を娶った。

8
前326年

大王軍、帰途へ
インダス川を渡ってパンジャーブ地方まで制圧したアレクサンドロスだったが、ここで兵士たちの進軍拒否にあい、撤退を余儀なくされた。

5
前330年

ペルセポリスを破壊
ペルシア帝国の聖都だったが、アレクサンドロスによって陥落。ペルシア人への報復の証しとして破壊され、廃都と化した。

部下ネアルコスが率いた航海ルート

インダス河口でアレクサンドロスの本隊と分かれたネアルコス隊はペルシア湾まで海上ルートで帰途に着いた。

アレクサンドロス帝国の最大版図



NASA's Earth Observatory

